

33 血液培養液を用いた DPS192iX 薬剤感受性検査の検討

○遠山峰子 澤田有美 山崎真美 山田美智子
畑諒祐 市村佳彦 岡原美保 達城行準
大阪赤十字病院 臨床検査科部

【はじめに】近年、新しい微生物同定法として質量分析が実用化され同定検査の迅速化が可能となった。しかし一方で薬剤感受性検査や耐性菌検出の迅速化はまだ実現していないのが現状である。DPS192iX (栄研化学) は 1 時間ごとに培養結果を測定し画像をデータとして蓄積する機能を有しているため耐性菌のリアルタイムな判定が期待できる機器である。今回我々は DPS192iX を用い、直接、血液培養ボトル培養液から感受性検査を実施し、サブカルチャーしたコロニーの薬剤感受性との比較検討を行ったので報告する。

【対象と方法】検討期間中に陽性化した血液培養ボトル 13 本を対象とした。分離剤入り採血管で培養液 5ml を 3500rpm 5 分で遠心分離し、生理食塩水で洗浄したのち再遠心した。さらに沈査物表面の菌層 10 μ l 前後を生理食塩水に浮遊させマクファーランド 0.5 に調整したものを菌液として用いた。また比較として翌日発育したコロニーを DPS192iX で測定した。

【結果】使用したグラム陽性球菌は *Staphylococcus aureus* 及び CNS の 7 株で、うち 3 株が MRCNS であった。グラム陰性桿菌では *Escherichia coli* 6 株を使用のうち 2 株が ESBL であった。翌日コロニーから接種した感受性結果と比較すると、カテゴリー判定においてはグラム陽性菌が 95%、グラム陰性桿菌は 96% が一致した。また MIC 値においてはグラム陽性菌が 76%、グラム陰性菌は 86% の一致がみられた。MRS

判定に使用する薬剤 MPIPC のカテゴリー判定値の乖離はみられず、培養開始後 6 時間から 8 時間の間に耐性判定がなされた。また ESBL の判定に使用する 第三世代セフェム CAZ CPDX CTRX AZT の判定値の乖離も見られず、5 時間で耐性判定がされた。

【考察】グラム陽性菌・陰性菌ともにカテゴリー判定では概ね良好な結果であった。しかしながら MIC 値での比較では一致率がやや低くなり、生理食塩水による培養液の洗浄では、赤血球などの夾雑物混入の排除に限界があると思われた。しかし敗血症患者から検出した耐性菌を迅速に報告することの患者への恩恵は大きく、今後さらに検討株数の蓄積が必要であると思われる。また発表当日は耐性菌保存株を用いた、耐性菌判定の経時変化についても報告する。

連絡先 06 (6774) 5111 内線 2738